

横浜市地区センターにおける屋外スペースと建物の関係について

- コミュニティセンター計画に関する研究 その2 -

日大生産工（院） ○松本 豊
日大生産工 広田 直行

1. はじめに

1.1 研究の背景と目的

地域には、人々の交流を深める施設として、コミュニティ施設がある。コミュニティ施設では様々な活動が行われているが、既往研究¹⁾では、屋外を利用した活動は少なく、まつりのみと報告している。しかし、屋外スペースでの活動は、建物内の面積不足解消や活動内容をオープンにするというメリットがある。そのため、コミュニティ施設は屋外利用を促進させるような施設計画が必要となる。

そこで本稿では、屋外スペースの種類を把握し、施設構成や周辺環境に適した屋外スペースの配置と、その設置状況について知見を得ることを目的とする。

1.2 研究の対象

本稿は 横浜市を研究対象とする。横浜市は、一般に「横浜方式」と呼ばれるコミュニティセンター構想を持っており、施設づくりに歴史のある地域として認識されている²⁾。また、近年では複合施設も多くみられ、建物形態が多様である。

調査は 横浜市地区センター全 80 事例のなかで、図面協力の得られた 74 事例のうち、屋外スペースを有する 59 事例を対象に行なう。

調査対象の概要を表 1 に示す。

2. 研究の方法

調査方法は、平面図および配置図の読み取りから、屋外活動が可能であると判断できる屋外スペースを抽出し、抽出された屋外スペースを建物や周辺環境との関係により分類する。

分類された屋外スペースについて 時代背景、複合形態、内外空間の関係性について分析する。時代背景については、屋外スペースの増加や減

少を建設年から考察し、時代の流れと屋外スペースの変遷を明らかにする。複合形態については、複合施設の構成と屋外スペースの関わりを把握する。内外空間の関係性については、建物内部と屋外スペースの関係、屋外スペース同士の間関係を明らかにする。

表 1 調査対象の概要

事例番号	地区センター名	建設年	屋外スペースの種類	建物階数 [地上]	複合施設
1	希望が丘	1973	広場・中庭	2	
2	山内	1977	前庭・屋上	3	○
3	南	1979	前庭・広場・公園隣接	3	○
4	金沢	1980	中庭・公園隣接	2	○
5	港南	1980	前庭	2	
6	菊名	1980	前庭	3	○
7	瀬谷	1980	ピロティ・広場	3	○
8	未吉	1980	広場	2	
9	神大寺	1981	前庭	2	
10	大正	1981	前庭・広場	2	
11	ほどがや	1981	中庭・広場・テラス・公園隣接	2	
12	生麦	1982	広場・ゲートボール場	2	
13	西	1982	前庭・中庭	2	○
14	長津田	1982	屋上・コリドール	2	○
15	都筑	1984	前庭・ゲートボール場	2	○
16	立場	1986	広場	2	
17	神奈川	1986	前庭	2	
18	西谷	1986	前庭	2	
19	十日市場	1986	前庭	3	
20	上中里	1987	前庭・後庭・テラス	2	
21	永谷	1987	中庭	2	
22	寺尾	1988	公園隣接・ゲートボール場	2	○
23	白山	1988	前庭	2	
24	藤が丘	1989	後庭	2	
25	綱島	1989	前庭・テラス	2	
26	東戸塚	1989	中庭・広場	2	○
27	本牧	1989	前庭・ピロティ・公園隣接	3	○
28	初音ヶ丘	1989	ピロティ	3	
29	豊田	1991	前庭	2	
30	中川西	1991	公園隣接	2	
31	若草台	1992	前庭・テラス	2	
32	神之木	1992	ピロティ	4	○
33	釜利谷	1992	前庭	2	
34	上矢部	1993	ピロティ	4	○
35	大岡	1993	広場・公園隣接	3	○
36	根岸	1994	広場・コリドール	3	○
37	瀬田	1994	前庭	3	
38	永田	1994	ピロティ・公園隣接	2	
39	富岡並木	1995	ピロティ	2	○
40	阿久和	1996	後庭	2	○
41	矢向	1996	後庭・屋上	6	○
42	東永谷	1997	中庭	2	○
43	緑原	1997	前庭・テラス	3	○
44	竹之丸	1997	前庭・屋上	2[1]	
45	藤棚	1997	屋上・コリドール	10	
46	六浦	1998	ピロティ	3	○
47	舞岡	1998	屋上・コリドール	2	
48	中屋敷	1999	コリドール	2	○
49	北山田	1999	前庭	2[1]	
50	奈良	2000	前庭・屋上	2	
51	今宿	2001	前庭・屋上	2	○
52	能見台	2001	前庭	2	○
53	市沢	2002	ピロティ・公園隣接	2	
54	野庭	2002	前庭・屋上・公園隣接	3	○
55	駒岡	2002	中庭・屋上	2	○
56	上飯田	2003	前庭	2	
57	踊場	2003	屋上・公園隣接	2	
58	白幡	2004	広場・屋上	2[1]	
59	中村	2005	広場	3	

3. 屋外スペースの分類

図面の読み取りから、コミュニティ施設では、前庭、中庭、後庭、ピロティ、テラス、広場、屋上、コリドール、公園隣接、ゲートボール場の10種類の屋外スペースが抽出できる。屋外スペースの分類とその説明、設置率を表2に示す。

表2より、屋外スペースには広場や公園などの施設に隣接するものや中庭、ピロティなど施設の形態などに影響を受けるものがあることがわかる。

表2 屋外スペースの分類

分類	屋外スペースの名称	設置率(%)	屋外スペースの説明
	前庭	46	メインエントランス前にある屋外スペース
	中庭	14	建物内にある屋外スペース
	後庭	7	建物横または後ろにある屋外スペース
	ピロティ	15	ピロティになっている屋外スペース
	テラス	8	建物に付属していて内部からアプローチできる屋外スペース
	広場	22	イベントが可能な独立した屋外スペース
	屋上	20	利用可能な屋上(屋上階以外も含む)
	コリドール	8	敷地内に設けた通路型の屋外スペース
	公園隣接	17	敷地に隣接している公園
	ゲートボール場	5	ゲートボールを目的とした屋外スペース

4. 屋外スペースの分析

4.1 屋外スペースの変遷

屋外スペースの変遷を、事例数の多かった、前庭、広場、屋上について分析する。建設年を、第1館が建設された1973年から5年ごとにまとめ、それぞれ図1、図2、図3に示す。

図1から、前庭は、1978-1982年を境に、緩やかな減少傾向にあるといえる。図2から、広場も同様に減少傾向にある。それに対し、図3から、屋上は増加傾向にあることがわかる。前庭や広場など地上の屋外スペース減少や空間の多様化が関係し、時代に沿って空間が豊かになっているといえる。これは、宅地化による敷地面積の減少や適正敷地確保が困難なこと、モータリゼーションによる自家用車普及の影響から駐車場が拡大していることなどが、原因といえる。(図4)

これより、屋外スペースの設置は、時代の流れや、周辺環境の変化に影響していることがわかる。

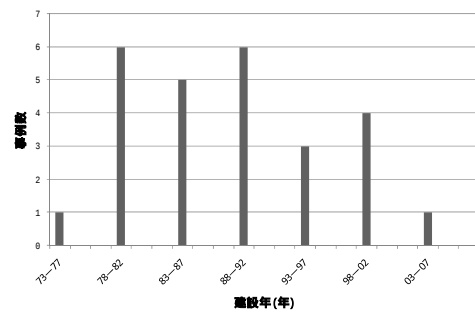


図1 前庭の変遷

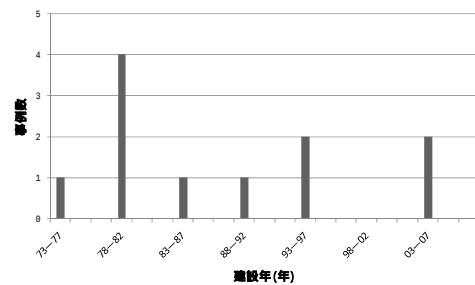


図2 広場の変遷

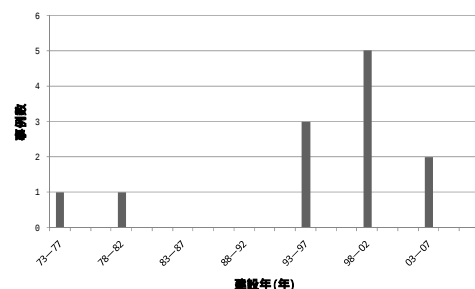


図3 屋上の変遷

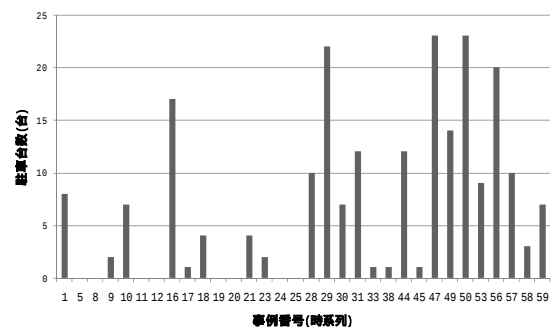


図4 建設年からみる駐車台数の変化³⁾

4.2 複合事例からみる屋外スペースの設置状況

横浜市地区センターは、全80事例のうち、他の施設と複合している事例が33事例ある。既往研究⁴⁾では、複合施設を複合形態により3タイプに分類している。図5に、複合タイプと屋外スペースを有している割合について示す。

図5より、「重層」と「混合」を比較すると屋外スペースの割合に大きな差があることから、複合形態と屋外スペースは関係があるといえる。「重層」のように各フロアで施設を分けるより

も、「隣接」や「混合」のように施設を水平方向につなげていくことで、空間が多様化し、様々な屋外スペースを設置することができるといえる。

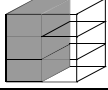
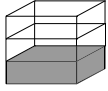
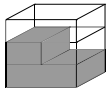
複合タイプ	複合形態	屋外スペースを有している割合(%)
隣接		75
重層		61
混合		100

図5 複合タイプと屋外スペースの関係

4.3 屋外スペースと屋内スペースの関係

前章で分類した屋外スペースについて、出入り可能な屋内スペースや室を図面より抽出し、表3に示す。

、 、 、 、 は、エントランスホールとつながっている事例が最も多く、これらの屋外スペースは、施設へ入館する際のアプローチ空間であり、人の移動や滞留が多い場所といえる。また、既往研究²⁾では、屋外活動において、エントランス前に屋外スペースを設けることは有効であるという結果が得られている。

ロビーは、中庭に多くみられ、他に 、 、 、 、 、 でみられる。これより、休憩や談話、待合に利用されるロビーは、屋外スペースと隣接させることで明るく開放的な空間をつくっている。

前庭、広場に隣接している室には、体育室ホールが多くみられることから、体育室は外部から直接入ることができ、また比較的広い屋外スペースに隣接している。

ピロティは、エントランスホールと多くつながっていることから、前庭の役割として設置されていることがわかる。

テラスは、図書コーナーが2事例みられ、屋外に出て自然光の下で本を読むという、くつろぎの空間が提案されている。

屋上は、隣接している室に和室が3事例あり、開口部に縁側を設置し、屋上やバルコニー部分を日本庭園のように設えることにより、茶道等の利用を考慮している。料理室や工芸室と

隣接している屋上やバルコニーでは、バーベキューや創作活動等の利用が考えられる。また、屋上は、廊下から出入り可能な事例が最も多いことや様々な屋内スペースとつながっていることから、避難経路としても考慮されていることがわかる。

コリドールは、エントランスホール、EVホール、体育室ホールから出入りでき、各ホールを通路型の屋外スペースでつないでいることがわかる。

機械室は、 、 、 でみられることから、外部から直接入れることは、メンテナンスがしやすくなるといえる。

表3 屋外スペースにアクセス可能な室名称

分類	屋外スペースの名称	屋内スペースの名称	事例数
	前庭	エントランスホール	25
		体育室ホール	4
		機械室	3
		ロビー	2
		体育室	1
		公会堂ホール	1
		喫煙コーナー	1
	中庭	エントランスホール	5
		ロビー	3
		廊下	2
		図書コーナー	1
		体育室ホール	1
		余暇コーナー	1
		訓練室	1
		デイスベース	1
		給食室	1
		工芸室	1
	後庭	エントランスホール	1
		ロビー	1
		プレイルーム	1
		住宅集会室	1
	ピロティ	エントランスホール	7
		ロビー	2
		事務室	2
		体育室ホール	1
		機械室	1
		EVホール	1
	テラス	図書コーナー	2
		ロビー	1
		廊下	1
		プレイルーム	1
	広場	レクリエーションルーム	1
		エントランスホール	7
		体育室ホール	3
		ロビー	2
		体育室	1
	屋上	指導室	1
		プレイルーム	1
		機械室	1
		廊下	5
		和室	3
		工芸室	2
		会議室	2
		料理室	2
		機械室	2
		EVホール	2
		ロビー	1
		余暇コーナー	1
		給湯室	1
		娯楽コーナー	1
フリースペース	1		
	コリドール	プレイルーム	1
		トイレ	1
		エントランスホール	5
		EVホール	1
		体育室	1
		体育室ホール	1
	公園隣接	階段室	1
		事務室	1
		ゲートボール場	
		体育室ホール	1

4.4 屋外スペースの組み合わせ

表1より、屋外スペースを複数有している事例がみられることから、屋外スペースの組み合わせを事例数の多かった、前庭、広場、屋上について考察する。それらの組み合わせを表4に示す。

表4 屋外スペースの組み合わせ

屋外スペースの名称	事例数		
	前庭	広場	屋上
前庭		2	5
中庭	1	3	1
後庭	1	1	1
ピロティ	1	1	0
テラス	4	1	0
広場	2		1
屋上	5	1	
コリドール	0	0	3
公園隣接	3	7	2
ゲートボール場	1	1	0
組み合わせなし	13	1	0

前庭は、「組み合わせなし」が最も事例数が多く、前庭は敷地内に単独で配置されることが多い。前庭は、屋外活動をする他に、日常的な待ち合わせや滞留スペースとしての性質もあり、そのため、屋外スペースが確保しにくい施設にも、駐車場付近に車回しと一体に配置されているといえる。

広場は、「公園隣接」と多く組み合わせられている。施設を公園の近くに配置し、広場と公園を一体に利用するためといえる。地域のまつりやバザーなど、広い屋外スペースを必要とする際に有効といえる。また、広場と公園を隣接させることは、景観的にも施設が周囲と一体となって感じられるメリットがある。

屋上は、「前庭」、「コリドール」と多く組み合わせられている。これらの屋外スペースは、通路としての性質を持っているため、人通りがあり、休憩や談笑に適しているとはいえない。そのため、地上に、そのような屋外スペースが確保できない施設は、屋上を休憩や歓談の場として提供しているといえる。

これより、屋外スペースの組み合わせには、その屋外スペースが持っている性質が関係していることがわかる。組み合わせ方は、長所を生かし、短所を補うような方法が取られているといえる。

5. まとめ

-)横浜市地区センターからは、屋外スペースとして、前庭、中庭、後庭、ピロティ、テラス、広場、屋上、コリドール、公園隣接、ゲートボール場が抽出できる。
-)屋外スペースの設置は、宅地化による敷地面積の減少やモータリゼーションによる自家用車普及が駐車場を拡大させていること等の時代の流れに影響を受けている。
-)複合施設では、各施設を積み重ねフロアで分けるよりも、水平方向につなげていく方が、空間が多様化し、様々な屋外スペースを設置する傾向がみられる。
-)施設内のエントランスホールや体育室ホールは、前庭や広場などの屋外スペースと連続させ、人の流れや滞留を考慮した配置となっている。
-)屋上は、様々な屋内スペースから出入りでき、各室に対応した設えや利用方法がみられる。
-)屋外スペースの組み合わせは、その屋外スペースが持っている性質が関係していて、主に短所を補うような組み合わせ方がみられる。

本稿では、時代背景、複合形態、内外の関係性から建物と屋外スペースの関係について報告した。今後はさらに屋外スペースの面積による傾向を把握し、実態調査から空間の設えや利用実態を明らかにする。

【注】

- 1) 松本豊、小林秀将、広田直行「コミュニティ施設における屋外スペースの利用状況からみる計画的要因」、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集、2007年、pp93-94
- 2) 若木滋、浅野平八、広田直行「コミュニティセンターに設置された機能と室の変遷 - 横浜方式(1973年～1995年)の分析 -」、第14回地域施設計画研究シンポジウム、1996年7月、pp107-114
- 3) 複合事例を除く32事例を対象とする。
- 4) 山口高嗣「コミュニティ施設の複合化事例にみる公共スペースの構成(横浜市地区センターを対象として)」、修士論文、2006年、pp2-4

【参考資料】

- 1) 横浜市 HP「地区センター一覧」、<http://cgi.city.yokohama.jp/shimin/chikucenter/all.php>